平成29年度【岐阜大学重点講座（環境）】　岐阜大学大学院連合農学研究科環境講座

野生生物と環境

連合農学研究科では、平成22年度から環境をテーマとした公開講座を毎年行ってきました。平成29年度は『野生生物と環境』をテーマに、構成大学である静岡大学の協力を得て行います。本講座では、絶滅の危機に直面する生物の保全、外来生物の脅威、野生動物による農林業や自然植生への被害などを取り上げ、こうした環境問題の解決を目指して進められている大学と地域や関連機関との間の共同の取り組みをわかりやすく解説いたします。

平成29年
10月21日（土）
12:45～16:20（受付12:00）

場所
岐阜大学サテライトキャンパス
多目的講義室（大）
岐阜スカイウイング37 東棟4階
（JR岐阜駅徒歩5分）〒500-8844
吉野町6丁目31番地

対象者　一般・高校生

入場無料
申込不要
テーマ毎の参加OK

挨拶　12:45～13:00
千家 正照　大学院連合農学研究科長

第1部　13:00～14:00

ライチョウの危機と動物園での保全への挑戦

【講師】 楠田 哲士　岐阜大学応用生物科学部准教授

特別天然記念物ニホンライチョウが、絶滅の危機に直面しています。2012年には保護増殖事業計画が発表されました。それ以前から動物園では、保護増殖を見据えて、別亜種のライチョウを使って先行的に飼育繁殖の技術確立と研究が行われてきました。今、ライチョウは生息域内での対策に加え、域外の動物園とで、種を存続させる挑戦が進められています。ライチョウの現状を知り、トキやコウノトリの絶滅を教訓に、日本の希少な野生生物の保全について考えます。

第2部　14:10～15:10

身近に潜む外来生物の脅威

【講師】 加藤 英明　静岡大学教育学部講師

日本には数多くの外来生物が持ち込まれ、野外に侵入しています。静岡県の水辺では外来生物である大型で獰猛（どうもう）なカミツキガメに出会うことがあり、アカミミガメが甲羅干しをしている姿を日常的に見かけられます。これらの生物は、愛玩用に輸入され飼育されたものが脱走や遺棄により野外に定着したものです。外来生物の防除には、低コストで持続可能な手法が必要とされ、同時に、生き物との正しい関わり方に関する教育が必要不可欠です。静岡県の現状と行政・地域・大学が連携して行っている防除の取り組みについて紹介します。

第3部　15:20～16:20

森とシカと人

【講師】 安藤 正規　岐阜大学応用生物科学部准教授

今、全国で様々な野生動物と人間社会との軋轢（あつれき）が大きな問題となっています。特にニホンジカは生息数の増加や生息地域の拡大が顕著であり、深刻な農林業被害や自然植生への悪影響をもたらしています。また近年では積雪地や高山帯の植生への悪影響も報告されており、貴重な植生を保全するための早急な対策が必要とされています。この問題について、現在の国内の状況をご紹介すると同時に、今後この問題を解消していくためにどんなことを検討・実行していくべきかについて議論します。

【岐阜大学大学院連合農学研究科】
岐阜大学と静岡大学で構成する博士課程の大学院で、農学分野を中心に研究・教育活動を行っています。この講座は、本研究科が中心となり、構成大学の岐阜大学応用生物科学部、静岡大学大学院総合科学技術研究科の協力を得て実施します。

主催 岐阜大学大学院連合農学研究科
【お問い合せ】TEL 058-293-2984　E-mail renno@gifu-u.ac.jp